

1. 自然と文化の森構想とは —大切な言葉は「共有」です—

20世紀のまちづくりや暮らしのあり方が問われています。

21世紀は、これらのあり方を見直すことから始めようと多くの人びとが考えています。

では、私たちはどのような環境のもとで、どのように暮らすことを望んでいるのでしょうか。

猪名川と藻川に囲まれた地域周辺は、千年を越す昔から、豊かな田園地帯として開けてきました。白鳳時代には、法隆寺形式の大伽藍の寺院（猪名寺廃寺）が建立されるなど、豊かな地域であったことがしのばれます。

猪名川が蛇行し、川の恵みを受ける一方で、水害や水をめぐる闘いも繰り広げられるなど、猪名川がこの地域の環境の基盤を造り上げてきたとも言えます。

戦後の経済成長が始まるまでは、田園地帯と阪急電鉄が開発した住宅街、また園田競馬場などがある他は、河川沿いの竹やぶや河畔林、一面に水田が広がるのどかな風景に満ちた地域でした。春にはレンゲが一面に咲き乱れ、夏には水辺にホタルが舞い、自然林では子どもたちがクワガタムシやカラスアゲハを追い、キツネやタヌキが人びとと共に暮らす自然豊かなところでした。村々では暮らしに根付く伝統的な行事や文化が受け継がれていました。

その後、わが国の経済成長を支えた本市工業の発展や、大阪を中心とした市街地の拡大により、人口が急増するとともに、良好な環境を求めて急速に宅地化が進みました。

さらに、猪名川・藻川の改修による河道の変更や廃川敷の発生があり、地域の自然地形は変化しました。また、生産緑地法の改正等により、農地の宅地化が進むなど、時代の流れとともに都市化が進み、古くからの地域や人のつながりも希薄になり、地域の姿や暮らしは大きく変化してきました。

しかし、そのような中でも、多くの市民等の努力により、市街地には珍しい自然林や緑あふれる河川敷、立派な集落や一面の農地、弥生時代の遺跡や神社仏閣、歴史を伝える伝統行事など貴重なまちの宝が残されてきました。

今や、猪名川の自然林は、摂津平野に残る唯一のエノキ・ムクノキ林と言われ、絶滅のおそれのある貴重な野生生物の種や植物群落等を示した兵庫県のレッドデータブックに記載されています。また近年、この周辺の草地や森にキツネ、キジ、フクロウ、キツツキといった都会では見ることのできない様々な生き物が帰ってきました。

このように、これまで私たちは、呼吸するように暮らしの中でこれらの環境を享受してきました。それは、毎日の通勤や散歩の途中にふと眺めた風景や、子ども時代の水路や川や森での遊びであったことから、意識することも少なかったのではないのでしょうか。

この地域の環境の基礎となり、人びとを引き付けて来た自然や文化は、そこに暮らした人びとの営みとともに千年を越える歴史を持つとも言えるのではないのでしょうか。

今、私たちが何もしなければ、これまで享受できた自然や文化も、時代とともに変化し失われてしまいます。また、私たちが、自然の仕組みに対する配慮を怠ると帰ってきた生き物もまた消えていきます。さらに、残されている農地も農家の努力だけに委ねられるとすれば、遅かれ早かれ住宅などに変わり、子どもたちが身近に稲や野菜が作られていく姿を学ぶこともできなくなります。

けれども、私たちは、この地域に残された貴重な「宝」を、生活の中で係わりながら、力を合わせて、一層素晴らしいものへと磨き、21世紀のあるべきまちの姿へと結実させ、地域の誇りとしていくこともできるのです。

尼崎市では、この数年間、この構想を創り推進していくため、市民公募により「自然と文化の森を楽しむ会」を結成し、多くの市民が参加する農作業体験活動、自然林や生き物をテーマにした体験活動、まちづくり資源の発見活動などに取り組んできました。けれども、これらの取組はまだ緒についたばかりであり、広く地域住民や市民に浸透するには、なお多くの努力と時間が必要です。

しかしながら、そうした経験を通じ、市民、地域住民、市民団体、事業者、専門家、行政などが協働して取り組めば、21世紀に望まれるまちの姿が必ずや実現できることを確信することができました。

まちづくりに力を合わせて取り組むまちでは、暖かい笑みが地域を包み、子どもたちがいきいきと育ち、多くの来訪者が感嘆の声を上げるでしょう。

わずか数十年のうちに、千年の蓄積を消費するのではなく、次の世代、次の次の世代へと、残された資源にさらに新しい価値を加え、手渡していこうではありませんか。

自然と文化の森構想とは、自然や歴史・文化など、このまちの持つ「宝」の大切さや価値を、多くの方々が共有し、未来の地域の姿を語り合い描きながら、その実現に向けて共に取り組み、その「宝」にさらに新しい価値を加え、未来へ引き継いでいくための方向を示すもので、地域の「夢」を実現していくための一連の取組を示すものです。

これから取組を進めていく中で、地域の夢やイメージ、そしてこの構想そのものも、「森」のごとく成長していくものと考えています。

「協働」とは...

市民や、企業・商店街などの事業者、および行政などが、よりよい地域をつくっていくために、対等のパートナーとして、相互の役割や機能を分担し合いながら取り組むことです。